

作成日：2024年2月13日（掲載資料固定日）

ルセンテイス一般使用成績調査 （CRFB002H1401，未熟児網膜症）の中間集計結果

最新情報に基づき、薬剤を適正かつ安全にご使用いただくために、ルセンテイス硝子体内注射液の一般使用成績調査（CRFB002H1401，未熟児網膜症）の中間集計結果を、ノバルティスファーマ株式会社 医療関係者向け情報サイト（DR's Net）に掲載致しました。

<留意点>

- 2020年3月～2023年9月の間で収集された情報です
- 中間の結果であるため、今後、結果は更新されます
- 安全性情報を掲載しています

添付文書 2023年1月改訂（第1版）※ 抜粋

【効能又は効果】

未熟児網膜症

【用法及び用量】

ラニズマブ（遺伝子組換え）として1回、0.2mg（0.02mL）を硝子体内投与する。なお、必要な場合は再投与できるが、1ヵ月以上の間隔をあけること。

※本剤の使用に際しては、最新の添付文書をご参照ください。

当該調査終了日：2023年9月25日

結果の概要

製造販売後調査の標題	ルセンチス硝子体内注射液 10 mg/mL 一般使用成績調査（未熟児網膜症，CRFB002H1401）
調査の課題及び目的	未熟児網膜症患者を対象に，ルセンチス硝子体内注射液 10 mg/mL を使用実態下で投与したときの安全性及び有効性を検討する。
調査デザイン	多施設共同，中央登録方式，非対照，非盲検の一般使用成績調査
主要評価項目	観察期間 24 週間の有害事象の発現症例数及び発現割合
結果	<p>当該調査開始日（2020年3月30日）から調査終了日（2023年9月25日）までに120例が登録され，120例の調査票データが固定された。安全性解析対象除外症例はなかった（Table AS_T001）。</p> <p>安全性解析対象症例120例のうち，男性が55.8%（67例），女性が44.2%（53例）であった。出生時の在胎週数の平均値（標準偏差）は25.2（2.70）週であった。ROPに罹患している眼は，両眼が97.5%（117例），左眼のみが1.7%（2例），右眼のみが0.8%（1例）であった。出生時の体重の平均値（標準偏差）は744.5（300.27）gであり，750g以下が66.7%（80例），750g超1000g未満が19.2%（23例），1000g以上が11.7%（14例）であった。Zoneは，ZoneIIが64.2%（77例），ZoneIが35.0%（42例）であった。Stageは，Stage3が65.0%（78例），Stage2が22.5%（27例），Stage1が5.8%（7例），Stage4が4.2%（5例）であった。AP-ROPは，「あり」が20.0%（24例）であった。なお，ROPの重症度は「軽症及び重症以外」が69.2%（83例）であった。</p> <p>ROPに対する前治療が実施されたのは3例で，いずれもレーザー網膜光凝固が実施された。ROPに対する併用薬及び併用療法は，「あり」が46.7%（56例）であり，レーザー網膜光凝固が54例，硝子体手術が6例であった（Table DM_T001）。</p> <p>本剤の総投与回数は，2回が73.3%（88例）と最も多く，次いで4回以上が20.0%（24例）であった（Table EX_T001）。なお片眼の投与を1回と数えた。</p> <p>有害事象の発現割合は7.5%（9/120例）であり，2例以上発現した有害事象は未熟児網膜症2.5%（3/120例）であった（Table AE_T001-1）。</p> <p>副作用の発現割合は2.5%（3/120例）であり，結膜出血，大静脈血栓症，腎静脈血栓症，及び治療効果減弱が各0.8%（1/120例）であった（Table AE_T001-2）。</p> <p>安全性検討事項に設定した項目は，感染性眼内炎，眼内炎症，眼圧上昇，動脈血栓塞栓事象の4つである。これらの項目に該当する有害事象は報告されなかった。</p> <p>VEGF阻害作用に関連する全身性の有害事象の発現割合は0.8%（1/120例）であり，発現した事象は大静脈血栓症および腎静脈血栓症がそれぞれ1件ずつであった（Table AE_T014）。</p>
結論	本定期報告時点までに，安全性検討事項を含め新たに懸念される事象は認められず，追加の措置を講じる必要はないと考えられた。今後も本剤のリスク管理計画書に記載した通常的安全性監視活動で安全性に関する情報を収集し，新たな安全性上の懸念が認められた場合には適切な措置を講じることとする。
備考	<p>添付資料1：解析結果</p> <p>添付資料2：安全性検討事項の各リスクの定義</p> <p>添付資料3：VEGF阻害作用に関連する全身性の有害事象の定義</p>

ROP: 未熟児網膜症（Retinopathy of Prematurity）

AP-ROP: 劇症型未熟児網膜症（Aggressive posterior ROP）

VEGF: 血管内皮細胞増殖因子（Vascular Endothelial Growth Factor）

安全性定期報告テンプレート 第 1.0 版 2022 年 12 月 15 日作成

Table of Contents

Table AS_T001: 症例構成

Table DM_T001: 人口統計学的特性および疾患特性（安全性解析対象症例）

Table EX_T001: 服薬状況（安全性解析対象症例）

Table AE_T001-1: 有害事象発現状況（SOC, PT別）（安全性解析対象症例）

Table AE_T001-2: 副作用発現状況（SOC, PT別）（安全性解析対象症例）

Table AE_T014: VEGF阻害作用に関連する全身性の有害事象発現状況（イベント, PT別）（安全性解析対象症例）

Table AE_T011: 安全性検討事項（有害事象及び副作用）の発現状況（安全性検討事項, PT別）（安全性解析対象症例）

Table AS_T001: 症例構成

解析対象	n
登録確定症例	120
調査票固定症例	120
安全性解析対象除外症例	0
安全性解析対象症例	120
有効性解析対象除外症例	6
初回投与日に投与された眼において有効性評価未測・未記載	6
有効性解析対象症例	114

Table DM_T001: 人口統計学的特性および疾患特性 (安全性解析対象症例)

	安全性解析対象症例
背景要因	N=120
性別 - n (%)	
男	67 (55.8)
女	53 (44.2)
出生時の在胎週数 (週)	
症例数	120
平均値 (標準偏差)	25.2 (2.70)
中央値	24.0
最小値 - 最大値	22 - 35
出生時の在胎週数 - n (%)	
24週以下	64 (53.3)
24週超27週未満	25 (20.8)
27週以上	31 (25.8)
本剤投与開始時の修正在胎週数 (週)	
症例数	120
平均値 (標準偏差)	35.0 (2.77)
中央値	35.0
最小値 - 最大値	30 - 44
本剤使用理由 - n (%)	
未熟児網膜症	120 (100.0)
その他	0 (0.0)
ROPに罹患している眼 - n (%)	
右眼	1 (0.8)
左眼	2 (1.7)
両眼	117 (97.5)
出生時の身長 (cm)	
症例数	67
平均値 (標準偏差)	31.66 (4.309)
中央値	31.00
最小値 - 最大値	23.0 - 46.0
出生時の身長 - n (%)	
20 cm未満	0 (0.0)
20 cm以上-40 cm未満	63 (52.5)
40 cm以上	4 (3.3)
不明・未記載	53 (44.2)

Table DM_T001: 人口統計学的特性および疾患特性 (安全性解析対象症例)

	安全性解析対象症例
背景要因	N=120
出生時の体重 (g)	
症例数	117
平均値 (標準偏差)	744.5 (300.27)
中央値	670.0
最小値 - 最大値	299 - 2108
出生時の体重 - n (%)	
750 g以下	80 (66.7)
750 g超-1000 g未満	23 (19.2)
1000 g以上	14 (11.7)
不明・未記載	3 (2.5)
本剤投与開始時の体重 (g)	
症例数	88
平均値 (標準偏差)	1573.8 (523.46)
中央値	1435.0
最小値 - 最大値	642 - 3190
ROPの罹患状況：Zone*1 - n (%)	
ZoneI	42 (35.0)
ZoneII	77 (64.2)
ZoneIII	0 (0.0)
不明・未記載	1 (0.8)
ROPの罹患状況：Stage*1 - n (%)	
Stage1	7 (5.8)
Stage2	27 (22.5)
Stage3	78 (65.0)
Stage4	5 (4.2)
Stage5	0 (0.0)
不明・未記載	3 (2.5)
ROPの罹患状況：AP-ROP*1 - n (%)	
なし	91 (75.8)
あり	24 (20.0)
不明・未記載	5 (4.2)
ROPの重症度*1 - n (%)	
軽症	31 (25.8)
軽症及び重症以外	83 (69.2)
重症	5 (4.2)
不明・未記載	1 (0.8)

Table DM_T001: 人口統計学的特性および疾患特性（安全性解析対象症例）

	安全性解析対象症例
背景要因	N=120
合併症 - n (%)	
なし	55 (45.8)
あり	63 (52.5)
不明・未記載	2 (1.7)
既往歴 - n (%)	
なし	70 (58.3)
あり	48 (40.0)
不明・未記載	2 (1.7)
ROPに対する前治療 - n (%)	
なし	117 (97.5)
あり	3 (2.5)
ROPに対する前治療詳細*2 - n	
レーザー網膜光凝固	3
硝子体手術	0
バックリング	0
冷凍凝固	0
その他	0
ROPに対するレーザー前治療*3 - n (%)	
なし	117 (97.5)
あり	3 (2.5)
ROPに対する併用薬及び併用療法 - n (%)	
なし	63 (52.5)
あり	56 (46.7)
不明・未記載	1 (0.8)
ROPに対する併用薬及び併用療法詳細*2 - n	
レーザー網膜光凝固	54
硝子体手術	6
バックリング	0
冷凍凝固	0
抗VEGF薬（ルセンチス以外）	0

Table DM_T001: 人口統計学的特性および疾患特性（安全性解析対象症例）

	安全性解析対象症例
背景要因	N=120
その他	0

*1 本剤投与開始日に投与された眼を対象とする。ROPの罹患状況に対し両眼投与の場合は悪い眼を対象とする。

*2 重複集計とする。

*3 本剤投与開始日に投与された眼を対象とする。本剤投与開始日に投与された眼に対し、レーザー網膜光凝固の治療歴のある症例を「あり」とする。

Table EX_T001: 服薬状況 (安全性解析対象症例)

	安全性解析対象症例 N=120
本剤総投与回数カテゴリー* - n (%)	
1回	7 (5.8)
2回	88 (73.3)
3回	1 (0.8)
4回以上	24 (20.0)

* 同日に両眼投与していれば、2回と数える。

Table AE_T001-1: 有害事象発現状況 (SOC, PT別) (安全性解析対象症例)

SOC PT	安全性解析対象症例 N=120 n (%)
合計	9 (7.5)
眼障害	5 (4.2)
未熟児網膜症	3 (2.5)
結膜出血	1 (0.8)
硝子体出血	1 (0.8)
血管障害	1 (0.8)
大静脈血栓症	1 (0.8)
呼吸器、胸郭および縦隔障害	1 (0.8)
呼吸不全	1 (0.8)
腎および尿路障害	1 (0.8)
腎静脈血栓症	1 (0.8)
一般・全身障害および投与部位の状態	2 (1.7)
治療効果減弱	1 (0.8)
全身性炎症反応症候群	1 (0.8)

同一症例に同一事象 (PT) が複数回発現した場合、1例としてカウント

SOCは国際合意順, PTは発現割合の降順 -> PTコード順に表示

MedDRA/J version 26.0

Table AE_T001-2: 副作用発現状況 (SOC, PT別) (安全性解析対象症例)

SOC PT	安全性解析対象症例 N=120 n (%)
合計	3 (2.5)
眼障害	1 (0.8)
結膜出血	1 (0.8)
血管障害	1 (0.8)
大静脈血栓症	1 (0.8)
腎および尿路障害	1 (0.8)
腎静脈血栓症	1 (0.8)
一般・全身障害および投与部位の状態	1 (0.8)
治療効果減弱	1 (0.8)

同一症例に同一事象 (PT) が複数回発現した場合、1例としてカウント

SOCは国際合意順、PTは発現割合の降順 -> PTコード順に表示

MedDRA/J version 26.0

Table AE_T014: VEGF阻害作用に関連する全身性の有害事象発現状況(イベント, PT別)(安全性解析対象症例)

イベント PT	安全性解析対象症例 N=120 n (%)
合計	1 (0.8)
静脈血栓塞栓症	1 (0.8)
腎静脈血栓症	1 (0.8)
大静脈血栓症	1 (0.8)

同一症例に同一事象 (PT) が複数回発現した場合, 1例としてカウント

イベント (統計解析計画書での記載順), PTは発現割合の降順 -> PTコード順に表示

MedDRA/J version 26.0

Table AE_T011: 安全性検討事項（有害事象及び副作用）の発現状況（安全性検討事項, PT別）（安全性解析対象症例）

安全性検討事項 PT	安全性解析対象症例 N=120	
	有害事象 n (%)	副作用 n (%)
合計	0 (0.0)	0 (0.0)

同一症例に同一事象（PT）が複数回発現した場合、1例としてカウント

安全性検討事項（調査票での記載順）-> PTは副作用の列での発現割合の降順-> PTコード順に表示
MedDRA/J version 26.0

Listing FORM12_sup: 安全性検討事項の各リスクの定義

安全性検討事項	定義	定義の詳細
重要な特定されたリスク		
感染性眼内炎	眼内炎 (PT) 眼感染 (PT) 細菌性眼感染 (PT) クラミジア性眼感染 (PT) 真菌性眼感染 (PT) ブドウ球菌性眼感染 (PT) 前房蓄膿 (PT) 全眼球炎 (PT) 硝子体膿瘍 (PT) 眼内感染 (PT) カンジダ性眼内炎 (PT) 真菌性眼内炎 (PT) ウイルス性ぶどう膜炎 (PT) 製品を介する感染因子伝播の疑い (PT) 感染性ぶどう膜炎 (PT)	
眼内炎症	細菌性眼内炎 (PT) 脈絡網膜炎 (PT) 脈絡膜炎 (PT) 毛様体炎 (PT) 眼の炎症 (PT) 前房蓄膿 (PT) 虹彩毛様体炎 (PT) 虹彩炎 (PT) 網膜炎 (PT) ぶどう膜炎 (PT) 硝子体膿瘍 (PT) 硝子体炎 (PT) 眼内感染 (PT) 前房の炎症 (PT) 非感染性眼内炎 (PT) ウイルス性ぶどう膜炎 (PT) 非感染性脈絡網膜炎 (PT) 非感染性網膜炎 (PT) 感染性ぶどう膜炎 (PT) ウイルス性角膜ぶどう膜炎 (PT)	
眼圧上昇	感染性硝子体炎 (PT) 眼圧上昇 (PT) 高眼圧症 (PT) 上強膜静脈圧上昇 (PT)	
重要な潜在的リスク		
動脈血栓塞栓事象	心筋梗塞 (SMQ) 出血性中枢神経系血管障害 (SMQ)	SMQ (Narrow) SMQ (Narrow)

VEGF 阻害作用に関連する全身性の有害事象の PT は以下と定義した。

事象名	定義
蛋白尿	SMQ (狭義)
高血圧	PT : 進行性高血圧, 外来血圧上昇, 拡張期血圧上昇, 血圧上昇, 収縮期血圧上昇, 拡張期高血圧, 子癇, 本態性高血圧症, 高アルドステロン症, 高血圧, 高血圧性心拡大, 高血圧クリーゼ, 高血圧性脳症, 高血圧性心疾患, 悪性高血圧, 悪性高血圧性心疾患, 悪性腎性高血圧, 胎児に影響する母体の高血圧症, 平均動脈圧上昇, 子癇前症, 腎性高血圧, 腎血管性高血圧, 高血圧性網膜症, 続発性アルドステロン症, 二次性高血圧, 収縮期高血圧, 断薬性高血圧, HELLP 症候群, 不安定高血圧, 新生児高血圧, コントロール不良の血圧, 代謝症候群, 起立血圧上昇, 高血圧性腎症, 内分泌性高血圧, 高血圧緊急症, 高血圧性心筋症, 高血圧性血管障害, 処置による高血圧, 血圧管理, 起立性高血圧, 高血圧前症, 神経性高血圧, 妊娠高血圧, 腎交感神経アブレーション, ページ腎, 高血圧性脳血管疾患, 仰臥位高血圧, 高血圧性終末器官損傷
治癒不良	PT : 治癒不良

硝子体以外の出血

PT：副腎出血，出血性吻合部潰瘍，大動脈瘤破裂，動脈破裂，耳介血腫，出血性静脈瘤，血性水疱，尿中血，脳幹出血，乳房出血，子宮広間膜血腫，頭血腫，小脳出血，梅毒性脳動脈瘤破裂，出血性脳動脈奇形，脳出血，新生児脳出血，結腸血腫，出血性膀胱炎，血性下痢，播種性血管内凝固，出血性腸憩室炎，出血性腸憩室，出血性十二指腸潰瘍，出血性十二指腸炎，耳出血，斑状出血，出血性脳炎，出血性腸炎，鼻出血，失血，硬膜外血腫，血液溢出，胎児・母体間出血，胃出血，出血性胃潰瘍，閉塞性出血性胃潰瘍，出血性アルコール胃炎，出血性胃炎，胃腸出血，歯肉出血，出血性関節症，吐血，血瘤，血便排泄，血腫，血精液症，血尿，尿中血陽性，外傷性血尿，腹腔出血，喀血，妊娠時出血，頭蓋内出血，皮下出血，表皮下出血，出血性脳梗塞，新生児出血性疾患，出血性障害，出血性梗塞，出血性卒中，血胸，ヘノッホ・シェーンライン紫斑病，肝血腫，肝出血，遺伝性出血性毛細血管拡張症，内出血発生の増加傾向，月経中間期出血，頭蓋内腫瘍出血，脳室内出血，新生児脳室内出血，腎挫傷，マロリー・ワイス症候群，メレナ，過長過多不規則月経，口腔内出血，筋肉内出血，心筋断裂，出血性腎炎，血性乳頭滲出液，食道出血，食道潰瘍出血，食道静脈瘤出血，出血性食道炎，卵巣血腫，膵臓出血，出血性膵炎，産科的骨盤血腫，陰茎出血，出血性消化性潰瘍，心嚢内出血，会陰血腫，点状出血，咽頭出血，前置胎盤による出血，流産後の出血，分娩後出血，胎盤早期剥離，出血性直腸炎，前立腺出血，肺胞出血，肺挫傷，肺出血，紫斑，電撃性紫斑病，新生児紫斑，老人性紫斑，直腸出血，出血性直腸潰瘍，腎血腫，腎出血，気道出血，新生児気道出血，後腹膜出血，破裂性脳動脈瘤，陰嚢血腫，脾血腫，脾臓出血，線状出血，出血性口内炎，くも膜下出血，新生児くも膜下出血，皮下血腫，硬膜下血腫，硬膜下血腫除去，硬膜下出血，新生児硬膜下出血，分娩第 3 期出血，血小板減少性紫斑病，血栓性血小板減少性紫斑病，舌血腫，外傷性血腫，臍出血，上部消化管出血，膀胱出血，子宮出血，腔血腫，腔出血，静脈瘤破裂，血管性紫斑病，心室破裂，外陰血腫，外陰部血腫除去，消退出血，動脈瘤破裂，心房破裂，心筋出血，爪床出血，脊髓出血，脊髓硬膜外出血，口唇出血，肛門出血，尿道出血，腫瘍出血，下垂体出血，出血性ショック，新生児メレナ，舌出血，縦隔血腫，子宮頸部血腫，子宮頸部出血，尿生殖器出血，適用部位内出血，胎児脳出血，脊髓硬膜外血腫，脊髓硬膜下血腫，出血性皮膚潰瘍，慢性胃腸出血，卵管留血症，挫傷，下部消化管出血，処置後出血，カテーテル留置部位出血，切開部位出血，穿刺部位出血，耳下腺出血，軟部組織出血，頸動脈瘤破裂，創傷出血，血腫感染，精巣出血，骨出血，大腸出血，小腸出血，髄膜出血，人工流産による出血，外傷性出血，血管破裂，胃十二指腸出血，脳血腫，血管偽動脈瘤破裂，埋込み部位出血，血管穿刺部位出血，出血性腫瘍壊死，痔出血，胎盤後血腫，肝臓血管腫破裂，骨盤血腫，肺血腫，動静脈瘻部位出血，動静脈グラフト部位出血，動静脈瘻部位血腫，動静脈グラフト部位血腫，カテーテル留置部位血腫，卒中の出血性変化，出血，冠動脈出血，尿路出血，閉経後出血，縦隔出血，吻合部出血，腹腔内血腫，出血性胃腸潰瘍，触知可能紫斑病，扁桃出血，胃静脈瘤出血，血性分泌物，血小板非減少性紫斑病，腹膜血腫，後腹膜血腫，視床出血，被殻出血，血性胆汁，急性出血性白質脳炎，カレン徴候，副甲状腺出血，乳頭筋出血，腸出血，出血性嚢胞，副腎血腫，注入部位内出血，切開部位血腫，頭蓋内血腫，出血性蕁麻疹，血性腹水，腎嚢胞出血，皮膚新生物出血，腸間膜出血，血腫除去，出血性卵巣嚢胞，大動脈破裂，動脈出血，小脳血腫，性器出血，胎児出血，腹腔内出血，出血性大腸潰瘍，粘膜出血，外傷性頭蓋内出血，陰嚢血腫，出血性小腸潰瘍，潰瘍性出血，新生児出血，脳内血腫除去術，気管出血，膀胱タンポナーデ，出血性素因，胸部出血，母斑出血，鼓室内出血，処置後血腫，移植部位出血，カテーテル留置部位内出血，骨盤内出血，埋込み部位血腫，外陰部出血，埋込み部位内出血，子宮血腫，血管穿刺部位内出血，出血性肛門潰瘍，頻発過多月経，甲状腺出血，皮膚出血，臍帯出血，出血性動静脈奇形，乳房血腫，歯槽出血，性交出血，血友病性関節症，特発性血腫，静脈出血，注入部位血腫，注入部位出血，気管支出血，喉頭出血，卵巣出血，精索出血，尿管出血，血管穿刺部位血腫，処置後血尿，骨挫傷，口唇血腫，大脳基底核出血，肝挫傷，脳微小出血，収れん薬療法，腹壁血腫，止血，血性腹膜透析排液，分娩時出血，出血性びらん性胃炎，腹壁出血，出血性肝嚢胞，大動脈壁内血腫，大動脈解離破裂，咽頭血腫，適用部位血腫，脾静脈瘤出血，臍血腫，肛門直腸静脈瘤出血，異常消退出血，ワクチン接種部位血腫，ワクチン接種部位出血，ワクチン接種部位内出血，帽状腱膜下血腫，副鼻腔血腫，腸血腫，陰茎血腫，筋挫傷，喉頭血腫，絨毛膜下出血，処置による出血，出血性血管炎，創傷血腫，腸間膜血腫，中枢神経系出血，歯髓出血，出血性甲状腺嚢胞，輸血後紫斑病，

事象名	定義
静脈血栓塞栓症	<p>放射線関連出血, 絨毛膜下血腫, 分娩前後出血, 適用部位出血, 慢性色素性紫斑, 腸骨動脈破裂, 脳幹血腫, 陰茎挫傷, 処置後挫傷, 生殖器挫傷, 心臓挫傷, 脾臓挫傷, 脊髄硬膜下出血, 脊髄くも膜下出血, 骨髄出血, 滴下投与部位血腫, 滴下投与部位出血, 硬膜外出血, 新生児胃腸出血, リンパ節出血, 胃腸ポリープ出血, 外傷性血胸, ストーマ部出血, 特発性出血, 深部解離性血腫, 線溶亢進, 口腔粘膜血腫, 動脈壁内血腫, 鼻中隔血腫, 内出血, 腱膜挫傷, グレイ・ターナー徴候, 急性出血性潰瘍性大腸炎, 頸動脈穿孔, 大動脈穿孔, 下肢動脈穿孔, 腸骨動脈穿孔, 動脈穿孔, 静脈穿孔, 大脳動脈穿孔, 椎骨動脈穿孔, 脳底動脈穿孔, 腎動脈穿孔, 脾動脈穿孔, 大腿動脈穿孔, 鎖骨下動脈穿孔, 上大静脈穿孔, 下大静脈穿孔, 鎖骨下静脈穿孔, 腸骨静脈穿孔, 大腿静脈穿孔, 皮膚粘膜出血, 脊髄血腫, 出血性壊死性膝炎, くも膜下血腫, 新生児脳室周囲出血, 大脳基底核血腫, 静脈破裂, 胃腸血管奇形出血, 失血性貧血, 腎被膜下血腫, 免疫性血小板減少症, 重度月経出血, 異常子宮出血</p> <p>PT: 腋窩静脈血栓症, バッドキアリ症候群, 海綿静脈洞血栓症, 大脳静脈血栓症, 静脈塞栓症, 肝静脈血栓症, 頸静脈血栓症, 腸間膜静脈血栓症, 腸間膜静脈閉塞, 産科的肺塞栓症, 骨盤静脈血栓症, 陰茎静脈血栓症, 門脈血栓症, 分娩後静脈血栓症, 肺塞栓症, 肺梗塞, 肺微小塞栓, 肺血栓症, 肺静脈閉塞性疾患, 肺静脈血栓症, 腎静脈塞栓症, 腎静脈血栓症, 脾静脈血栓症, 上矢状洞血栓症, 上大静脈症候群, 血栓性静脈炎, 遊走性血栓静脈炎, 新生児血栓性静脈炎, 血栓性静脈瘤, 横静脈洞血栓症, 大静脈塞栓症, 大静脈血栓症, 静脈造影異常, 静脈閉塞性肝疾患, 静脈血栓症, 血栓後症候群, 静脈切除術, 大静脈フィルター挿入, 鎖骨下静脈血栓症, パジエット・シュレッター症候群, 術後血栓症, ホーマンズ徴候陽性, 深部静脈血栓症, 静脈カテーテル留置, 静脈修復, 中心静脈カテーテル留置, 腎静脈閉塞, 下大静脈閉塞, 上大静脈閉塞, 門脈閉塞, 静脈閉塞, 肝静脈閉塞, 腸骨静脈閉塞, 塞栓症, 四肢静脈血栓症, 静脈閉塞性疾患, 静脈手術, 静脈ステント挿入, 処置後肺塞栓症, 新生児静脈血栓症, 術後深部静脈血栓症, 妊娠中の静脈血栓症, 陰茎海綿体血栓症, 血管グラフト, 脾静脈閉塞, SI QIII TIII パターン, 静脈再疎通, 肺静脈閉塞, マイ・トゥルナー症候群, 下大静脈症候群, 卵巣静脈血栓症, 閉塞性ショック, 門脈海綿状変化, 大静脈フィルター除去, マーラー徴候, 圧迫帯使用, 大脳静脈洞血栓症, 表在性静脈血栓症</p>
緑内障	<p>PT: 閉塞隅角緑内障, 境界域緑内障, 発達緑内障, 糖尿病性緑内障, 眼底検査異常, 緑内障, 外傷性緑内障, 緑内障性毛様体炎発症, 隅角鏡検査異常, 光輪視, 虹彩切開, 開放隅角緑内障, 視神経乳頭辺縁不鮮明, 視神経乳頭陥凹, 水晶体融解性緑内障, 色素性緑内障, 瞳孔対光反射試験異常, 細隙灯試験異常, 線維柱帯切除, 視野検査異常, 緑内障手術, 線維柱帯形成, 眼部液ドレナージ, 緑内障薬物療法, 視神経乳頭陥凹/乳頭比増加, 緑内障性視神経症, 水晶体線維柱帯切除, 視覚コントラスト感度低下, 正常眼圧緑内障, ぶどう膜炎-緑内障-前房出血症候群, ぶどう膜炎性緑内障, 落屑緑内障</p>